

二 ドイツ民族強化策と強制労働

それでは、ポーランドにおけるドイツ民族強化策なるものが実際にどのように進化したか、その大まかな推移をみておこう。表2-1は全占領期間に関する統計であり、占領下のポーランド人が、一九三九年から四四年の占領全期間にわたって、各段階の戦況に関連して併合地から総督府へ、総督府からソ連領へ、あるいは併合地内部、総督府内部でどのように強制移住させられたかを一目瞭然にしている。一九四〇年六月、西部戦線でフランスに勝利してから、一年後の独ソ戦開始にいたる期間に、ライヒに併合されたポーランドから総督府への強制移住は頂点に達した。独ソ戦の開始までに、すなわち一九四一年春に併合地域から総督府への移送は一段落したのであった(表2-1参照)。

もちろん、このような強制移住行動はなんの摩擦もなく進化したのではなく、住民の不満や抵抗などを引き起こし、総督府のフランク指揮下の行政当局と治安警察との軋轢の原因ともなった。⁽⁷⁷⁾ 占領権力は、現場においてかならずしも一貫した統一的な政策を執行しているわけでもなかった。「ドイツ当局のウクライナ問題についての完全な多様性」が、ウクライナ人の困惑的であった。総督府の東部国境近く、少数民族としてのウクライナ人の村落がある地域にポーランド人が送りこまれ、その結果、旧ポーランド共和国が推進していたポーランド化を、この強制移住が強力に押し進めることになった。⁽⁷⁸⁾

しかし、総督府領内の約七五万人のウクライナ人を結集し、統一させる作業もやっていた。具体的には、たとえばウクライナ人の意味での学校制度やギリシャ正教の建設があった。それにより、大口シオニック・ツァーリズムの志

表2-1 ポーランド住民に対する移住強制行動と移住実績(1939-44年)

行動の名称	時期	～から	～へ	移住者数
サン川以東へのポーランドユダヤ人の強制退去	1939.9	総督府	ソ連	約20,000
グディニアからの疎開	1939.10-1940	グディニア	ダンツィヒ-西プロイセン	約50,000
「乱暴な」移住	1939-1940	西プロイセン ヴァルテラント	総督府	約40,000
「第1回近距離計画」	1939.12.1-17	ヴァルテラント	総督府	87,833
「中間計画」	1940.2.10-3.15	ヴァルテラント	総督府	40,128
「第2回近距離計画」	1940.3.15-41.1.20	ヴァルテラント	総督府	133,506
第1回西プロイセン計画	1940.5.4-11.15	ダンツィヒ-西プロイセン	総督府	30,758
「ムウァヴァ作戦」	1940.11.9-20	ツイヒェナウ	総督府	10,700
ダンツィヒ移住センター退去	1940.11.15-41.3.15	ダンツィヒ-西プロイセン	総督府	10,504
「ザイブッシュ作戦」	1940.11.23-12.14	東オーバーシュレー ジエン	総督府	17,415
「リトアニア作戦」	1940.12.5-17	ツイヒェナウ	総督府	9,946
「第3回近距離計画」				
移住	1941.1.20-3.15	ヴァルテラント	総督府	19,226
追出し	1941.3.16-42.1.21	ヴァルテラント	ヴァルテラント	111,600
シーラッツ射撃場疎開	1941.4.1-11.1	シーラッツ郡など	ヴァルテラント	23,815
ダンツィヒ-西プロイセン内部移住	1941.4.22-42.12.31	ダンツィヒ-西プロイセン	ダンツィヒ-西プロイセン	19,312
「拡大第3回近距離計画」	1941.1.22-12.31	ヴァルテラント	ヴァルテラント	99,074
総督府諸射撃場疎開	1941-1942	総督府	総督府	171,000
「農作業員作戦」	1942.3.2-6.23	ヴァルテラント	ヴァルテラント	171,947
「Zamosc作戦」	1942.11.28-12.31	総督府ルブリン管区	総督府、ドイツ、 アウシュヴィッツ 収容所	33,832
東オーバーシュレー ジエン移住	1942	東オーバーシュレー ジエン	東オーバーシュレー ジエン、総督府	約63,000
ピアウイストク移住	1942-1943	ピアウイストク	ピアウイストク、 ドイツ	28,465

表 2-2 ポーランドからの強制労働力調達

	総督府から ¹⁾	併合地域から	総 数
1939 年末	41,000		41,000
1940 年 7 月	319,000	126,000	445,000
1940 年末	342,000		468,000 ²⁾
1941 年 1 月			798,000 ²⁾
1941 年 9 月	500,000	508,000	1,008,000 ²⁾
1942 年 5 月	775,000 ²⁾	420,000	1,295,000
1942 年 8 月	854,000 ²⁾	482,000	1,336,000
1942 年 11 月	950,000	501,000	1,451,000
1943 年 3 月	1,000,000	526,000	1,526,000
1943 年 8 月	1,124,000	556,000	1,680,000
1943 年 12 月	1,155,000	559,000	1,714,000
1944 年 3 月	1,177,000	589,000	1,766,000
1944 年 6 月	1,214,000	628,000	1,843,000
1944 年 9 月	1,281,000 ³⁾	648,000	1,929,000
1944 年 12 月	1,333,000 ⁴⁾	693,000 ⁵⁾	2,026,000
1939 年から 1944 年までに民間労働者と称されたポーランド人戦時捕虜			約 400,000
1944 年末の戦時捕虜およびポーランドから送致された民間労働者、合計			2,426,000

注：1) 1941 年からはピアウィストクを含む。

2) ライヒ労働省の数字で、基準日に投入されていた最低数をあらわし、送致された労働者の総数を意味するものではない。

3) ワルシャワ蜂起後に送致された 65,000 人を含む。

4) ここには、36,000 人の他の国の市民が含まれている。

5) このうち、670,000 人はドイツに、23,000 人はフランスに配置されていた。

出所：Zwangsarbeiterdeportation aus dem okkupierten Polen von 1939 bis 1944, in: *Europa unterm Hakenkreuz (Polen)*, S. 360.

撃準備の過程で、もう一段急増している様子が明らかである。

ともあれ、人間と労働力との相互流動という側面があったこと、併合地域からの強制移住が総督府における一方的な人口増加ないしは労働力増加に結果したのではないこと、ここではこの点に着目しておこう。そして、同時並行的な逆の流れとの内的な連関を見失わないようにしておこう。ユダヤ人迫害を、ポーランド人、とりわけソ連人などの運命から切り離して、不当に一面的に評価する歴史解釈、すなわちユダヤ民族主義的・シオニスト的歴史解釈、あるいは冷戦思考的歴史解釈から免れるために……。

そして、ユダヤ人に対して強制労働をやらせるようになるひとつの重要な要因に、ポーランド人民衆の胸中にひそむ伝来の、資本主義化の波にあらわれる農村

表 2-1 つづき

行動の名称	時 期	～から	～へ	移住者数
「ウクライナ作戦」	1943.1.15 - 3	総督府ルブリン管区	ドイツ、総督府、収容所	14,739
追出しヴァルテラント	1943	ヴァルテラント	ヴァルテラント	42,967
作戦「ヴェアヴォルフ(人狼)」	1943.6 - 7	総督府ルブリン管区	各地の収容所、ドイツ、総督府	60,000
作戦「黒海ドイツ人」	1944.1.1 - 11.1	ヴァルテラント	ヴァルテラント	95,211
ヴィスワ川左岸ワルシャワ疎開	1944.7 - 10	ワルシャワ	総督府、ドイツ、諸収容所	約 650,000

出所：Aktionen zur Aussiedlung und Verdrängung der Bevölkerung des okkupierten Polen von 1939 bis 1944, in: *Europa unterm Hakenkreuz (Polen)*, S. 356f.

向やポーランド的志向の宗教者を排除しようとしたのである。それは、ポーランド人とウクライナ人、ロシア人との民族的分離の明確化・相互対立を利用しようとする意図からでてくることであった。したがって逆のサイド、すなわちポーランド人の軍事的革命組織からは、ウクライナ人定住地域で農民が「ドイツ当局との協働をこれ以上つづけるなら、ポーランド人組織によって死刑判決が下されることになろうなどと脅迫される」ことにもなった。⁷⁹⁾

それはともあれ、一九四〇年二月にワルシャワで発見されたポーランド人のピラは、「ライヒドイツとなった東部地域から五〇〇万人が移住させられるであろう。総督府には現在一一〇〇万人の住民がいるので、そうなれば一六〇〇万人となり、過剰人口化したといわれるドイツよりも人口密度が高くなるう」など⁸⁰⁾と、進行中の強制移住に強烈な印象を受けて述べていた。しかしもちろんこの段階では、そのような規模とはほど遠いものであった。

しかも同時に、逆の流れとして、さきに詳しくみたように「労働民族」と内幕に規定されたポーランド人のライヒにおける強制的労働は、この間に急増した(表 2-2 参照)。すなわち、表 2-2 のうち、独ソ戦開始までの推移をみると、第一段階で西部での電撃戦開始とともに強制労働力が急増し、さらに、第二段階でイギリスの抵抗による戦争の長期化とソ連攻

ドイツ第三帝国の ソ連占領政策と民衆 1941—1942

永岑三千輝 著



同文館